

仏向貝塚・仏向遺跡

(横浜市保土ヶ谷区No.39・84 遺跡)

調査期間

20100104～20100331

所在地

横浜市保土ヶ谷区
仏向町

時代

縄文
弥生
古墳
中・近世



作成日:20100215

概要

本遺跡の発掘調査は独立行政法人都市再生機構神奈川地域支社による仏向町団地建て替えに伴うもので、平成22年1月から開始しました。

本遺跡は帷子川(かたびらがわ)右岸の台地上にあります。発見された遺構は縄文時代、弥生時代、近世と長期にわたり、住居跡、溝、畝(うね)などが発見されています。

縄文時代の遺構として竪穴住居跡や集石があり、縄文時代早期から後期中頃の土器や石器が出土しています。現在調査が途中なためさらなる遺構、遺物の発見が見込まれます。

弥生時代の竪穴住居跡は現在までに10軒が確認され、そのうち8軒を調査しています。出土した土器から弥生時代後期を主体とするもので、それぞれ2軒一組がそれぞれ接して発見されています。周辺の調査では、これまでに方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)が発見されていますので、これらに埋葬された人々の集落であった可能性があります。

近世以降の遺構としては畝の跡である畝が発見され、この地が近世以降、生産地として利用されていたことがわかりました。

現在、弥生時代や縄文時代の調査を行っています。この



▲2号住居跡(弥生)



▲3号住居跡(弥生)

のち旧石器時代の調査も行う予定です。



▲3号住居跡遺物出土状況